

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 012	提案機関名	畜産課
要望問題名 ：性判別精液を利用した効率的な受精卵生産技術の開発		
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 「背景」 酪農経営における後継牛の計画的な確保ができるか否かは、重要な問題である。 これに対し、最近、少しずつ市場に流通し始めた性判別精液は魅力的なアイテムであり、これを用いた人工授精や受精卵の生産も行われてきている。しかしながら、受精率が低いなどの課題が一部に伝えら、農家での利用が進んでいない状況である。本来であれば、性判別精液を供給している機関での性判別精液の処理方法の改善を望むところであるが、それが実現する前の段階では、現状の性判別精液を利用し、人工授精、体内受精卵生産及び体外受精卵生産等における効率的な利用方法並びに従前技術の改善の検討を要望するところである。 「内容」 ・人工授精における性判別精液利用方法の改善技術 ・体内及び体外受精卵生産における性判別精液利用方法の改善技術		
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内	
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター	
備考		

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	畜産工学担当
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 生体内吸引卵子と性選別精子を用いた効率的な体外受精卵生産技術の開発(H22-24)		
対応の内容等	性判別精液は後継牛の計画的な生産のために有効と考えられますが、ストロー内の精子数が少なく活力が低いことから人工授精による受胎率の低いことが課題となっています。そこで、平成22年度より性判別精液を利用した体外受精卵の生産について試験を実施しています。具体的には、性選別精子の受精率を向上させるための卵子の採取方法（卵胞刺激処理）や性判別受精卵の生産効率について検討します。なお、人工授精や体内受精卵生産での利用については今後課題化を含めて情報収集に努めます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			